

## 特集

### 警察で関わった少年と保護者

～先日対応した少年の万引き事件から考えたいと思います～



今日、私はお菓子やおにぎりを万引きした。今までにも5～6回万引きして見つかってないし、今回も大丈夫だと思っただけで、見つかっちゃった。万引きすることは悪いことだと知っていたけど、お腹がすいたから盗った。

謝ったら許してもらえらると思っただけで、警察に連れられて行かれて万引きした理由を聞かれた。そのうち、警察に親も来た。こんなことになると思わなかった。

万引きは「ゲーム」ではありません。リセットボタンで「なかったこと」にはできないですよ。子供であっても謝って許されることはありません。しかし、軽い気持ちで万引きをしてみよう子供たちがいます。

警察から子供が万引きしたとの連絡を受け、子供をむかえに警察に行きました。とてもシヨックでした。

警察からの帰り道、子供が泣いていたので、この子もシヨックを受けているだろうと、万引きした理由を聞きませんでした。

翌日、万引きをしたお店に、私が1人で謝罪に行きました。



家庭でのコミュニケーションが不足している、子供の気持ちをおわかっていなかったと思います。

子供の問題行動には必ず理由があります。これをきっかけに話を聞かないと何も解決せず、指導もうまく届きません。親は子供に対して責任があります。子供に気を使って、結果、逃げたいけません。

謝罪には子供も連れて行ってほしいところです。謝罪する親の背中を見せることで子供も自身の行動を反省する機会になります。

子供の交友関係、行動範囲、心情など、日頃からの関わり方が大事です。また、善悪について話をすることも大事です。わかっているようでわかっていない子供も多いです。

## ◆◆ まとめ ◆◆



普段から暖かい会話があり、きちんと善悪の判断を教えている「親」のいる家庭は「犯罪」とは縁遠いようです。

子供は「親」の姿をよく見えています。大人が自らの行動を振り返り、子供の「目標」であり続けたいですね。

そして、起きてしまったことは起きてしまったこととして、それを「機会」にするべきだと思います。